

雅ねえの、みんなで取り組む

獣害対策講座 Vol.2

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

おさらいと予習

やあ、めつきり春もすすんだけど、あなたも、田畑のイネや野菜、牛さんや庭先の果樹たちもみんな元気かな？

獣害対策講座2回目だよ。で、最初にちよつとおさらいと今回の予習しておくね。

前回は：

獣害対策ってわかってやればめっちゃ簡単、わからなければ地獄。獣害が増えたっていうけれど、何が起きてるのが見えて、気づいて、考えて、初めて対策ってすむ。

見えているように見えてない、気づかないこと、意味も考えないことって実は身の回りにいっぱいある。

例えば、タヌキも来る、イノシシも来るってどういうことなのか？

前回は、収穫もしないで放置したカキと毎年実った果実は全部収穫するカキを例に意味を考える練習しましたよね。

今回は：

稲作を例に、田んぼとその周辺での気づきの練習。で、キーワードは『餌付け』だから覚えておいてね。

柵の外側歩けるかしら

それではさつそく田んぼの獣害ってなにか理解するため練習やりましょ。

まず、あなたの田んぼの周りを一周してみよう。あなたが、張り巡らせた柵の設置状況はどんな感じかな？

柵で囲ったのにイノシシに入られたって人は特に注意。

柵の外側、必ず人が歩けるだけの道幅確保できてるかな？柵の外側を人間が楽に歩けないなら、その柵は間違いなく、動物を安心させて田んぼに引き寄せてる逆効果の柵。

だって、外側歩けないってことは動物に「柵の外へはめつたに人は来ないよ」っていうメッセージを発してるわけですよ。

えっ、トタン柵の内側は草やササを刈払ってるけど、外側はススキもササも刈払ってないですって？

それは、山になんか住まずに田んぼの横に住みなさいってメッセージですよ。

じゃあ、ついでに柵のもう少し外側も点検しとこ。



柵の外どこまで見通せる？

前回、「とにかく、とにかく、とにかく、動物は安心して食べる所に住みたい」だけって言ったの思い出して。柵の外側を、歩けないって、柵までの安心、安全をあなたが動物に保証した訳ですよ。

さらに、その外側。畦の外側が農道、隣の田んぼ、用水路、山林とかあると思うけど、畦から2〜3メートル以

内に、たとえ一本でもツバキ、アジサイ、サツキ、ツツジなんか茂ってないかしら？
アツ、それにススキの古株とかイノシシの背中が隠れるくらいのササとか。たった一か所、一本の木でもその向こうにイノシシが隠られるくらいの茂みがあれば、イノシシにとって素敵な安心材料。いざとなればあそこに隠られるって思うから。
山際で山林に接しているような田んぼは特に要注意。
山の中はスギやヒノキの林地でも、田んぼに接した林縁部にはツバキ、アオイ、グミ、ヒサカキ、チャなどの灌木やササが屏風のように生えていて林地の中は見通せない。
こんなところって、ひそみ場どころか、格好の寝場所になつてることが多い。
特に鹿児島県って駆除が対策なんて間違つた思いが定着しているせいなのか、行政が正しい知識の情報提供をさぼってるせいなのか、あるいは気候が温暖なためか、とにかく田畑のまわりに鬱蒼とした動物の棲み家を平気で放置してる集落が多いような気がするってならないのだ。